

やまがた地球家族

YAMAGATA GLOBAL FAMILY



Gloriosa Lily (Wikimedia Commons より)

『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』機関誌 VOL.16

協力隊を育てる会 北海道・東北・関東ブロック懇談会 初開催!

10月28日(土)山形グランドホテル(山形市)にて【協力隊を育てる会 北海道・東北・関東ブロック懇談会】が開催され、北海道から関東の《育てる会》15組織の代表28名が初めて一堂に会しました。今後の活動はどうあるべきか、各県組織との意見交換を通じて情報と課題の共有を図るとともに、ブロック間の連携強化ならびに全国組織としての活動強化に繋げるために開催されたものです。



「協力隊に参加し易く、その経験を地域社会に活かせるような社会を創る」という理念の下、全国47都道府県2市に当会のようなボランティアによる支援組織が発足しています。経済界、自治体、教育 etc. さまざまな分野から集まったメンバーが、地域の特性を活かしながらより良い国際社会と地域社会の発展に貢献すべく、市民レベルによる活動を広げています。

当会の酒井会長は主催者挨拶の中で「協力隊創設者の一人・寒河江善秋氏は山形県出身。我々が地道に続けてきた企業向け懇談会によってJICAと地元企業が繋がり、国際貢献だけでなく地域活性化にも少しずつ成果をあげてきている。各地域の取り組みや課題を共有し、より良い活動にしていこう」と述べました。(ノ)

各組織から、特に力を入れている事業とその成果、課題等を発表。地元高校生や隣県組織との連携、会員企業とのコラボレーション等の優良事例が報告された一方、会員減少や役員の世代交代が共通の課題であることも認識されました。

意見交換では、協力隊OB会との連携、広報活動のあり方など多岐に渡るテーマが取り上げられ、有意義な場となりました。

■青年海外協力隊の生みの親・寒河江善秋

「人に支配されず、人を支配せず、あたたかく、したたかに生きる」。協力隊生みの親の一人・寒河江善秋(1920～77)の言葉です。氏は川西町出身。陸軍中尉としてインドネシアで終戦を迎え、戦後の社会への危機感から青年運動の道へ。1951、全国に先駆けて産業開発青年隊を本県で結成。青年海外協力隊の礎を築きました。

川西出身の寒河江善秋<社会活動家、没後40年>



東京支社
野田 達也

生き方や思想再び注目

富や名声求めず、人生楽しく

平成29年5月7日(山形新聞) 掲載

「人に支配されず、人を支配せず、あたたかく、したたかに生きる」。協力隊生みの親の一人・寒河江善秋(1920～77)の言葉です。氏は川西町出身。陸軍中尉としてインドネシアで終戦を迎え、戦後の社会への危機感から青年運動の道へ。1951、全国に先駆けて産業開発青年隊を本県で結成。青年海外協力隊の礎を築きました。

寒河江善秋(1920～77)の言葉です。氏は川西町出身。陸軍中尉としてインドネシアで終戦を迎え、戦後の社会への危機感から青年運動の道へ。1951、全国に先駆けて産業開発青年隊を本県で結成。青年海外協力隊の礎を築きました。

JICA ボランティア家族連絡会

エッセイコンテストと帰国報告会の同日午後から、山形県観光スポーツ部インバウンド・国際交流推進課国際交流室から来賓を迎え、《JICA ボランティア家族連絡会》が開催されました。



この会は留守家族の皆さんが JICA ボランティア事業の理解を深め、家族同士の交流、情報交換を行っていただくための場です。今回は 4 家族 5 名がご参加でした。

ボランティアご家族

	氏名	派遣中ボランティア氏名	派遣国/職種	派遣期間	グループ
1		東海林 由貴	ボリビア/エアロピクス	2016/10~2018/10	A
2					
3		佐藤 麻衣	セネガル/野菜栽培	2017/7~2019/7	B
4		片桐 千津香	パラグアイ/小学生教育	2018/1~2020/1	C
5		本間 結	ブラジル/日系日本語学校教師	2018/1~2020/1	D

※当日配布資料より抜粋

まず、JICA 側からボランティア事業概要と支援体制、ボランティアの帰国後の進路について等の説明を受けました。更に関係支援団体として、公益社団法人青年海外協力協会、NPO 法人山形県青年海外協力協会、協力隊を支援するやまがた地球家族の会から、それぞれ JICA ボランティアに対する支援を紹介。

グループ懇談には、大ベテランから帰国したての若手まで 13 名もの協力隊 OB が参加。留守家族の皆さんが当然覚える不安や心配に、自らの経験を踏まえて答えていきました。

◆山形県からの JICA ボランティア派遣状況

50 年を超える世界へのボランティア派遣で、山形県からの派遣人数の累計は 490 名。なお、県内から派遣されている協力隊員 15 名のうち 13 名が女性であることは特筆すべきでしょう。日本からの留学生についても女性が男性の倍近い、というデータもあり、女性の国外志向が頼もしい！

- ・青年海外協力隊 15 名 / 12 ヶ国
 - ・シニアボランティア 2 名 / 2 ヶ国
 - ・日系社会青年ボランティア 2 名 / 1 ヶ国
- (平成 30 年 2 月 28 日現在)

《平成 29 年度 協力隊を支援するやまがた地球家族の会 事業報告》

期 日	事 業	会場/参加者
H29 年 5 月 25 日	定例総会/事業報告、決算報告、事業計画、予算の承認 モロッコ、サモアの協力隊員帰国報告	出羽庄内国際村 / 24 名
6 月 22 日	29 年度 1 次隊壮行会 セネガル、ブルキナファソ、フィリピンの隊員の表敬並びに壮行 パラオ、マーシャル、ミクロネシア、サモア、ケニアの協力隊員の帰国表敬	県庁 / 11 名
10 月 28 日	東北・北海道並びに関東ブロック懇談会 各県組織の課題解決に向けた情報交換	山形グランドホテル / 27 名
11 月 20 日	地域企業の底力拡充に向けた JICA 施策の活用に関する情報交換会 JICA、育てる会の報告、企業等 12 団体との意見交換会	(株) JA ビル / 27 名
12 月 18 日	29 年度 3 次隊壮行会、パラグアイの隊員の表敬並びに壮行 ルワンダ、マダガスカル、インドネシア、エチオピアの隊員の帰国表敬	県庁 / 8 名
H30 年 3 月 24 日	ボランティア家族連絡会及び帰国報告会 国際協力エッセイコンテスト受賞者表彰式及び朗読発表 インドネシア、エチオピアの協力隊員による帰国パネルトーク	国際交流センター / 43 名

※ 5 月 25 日 一 機関紙発行 ※ 育てる会のカレンダー作成並びに会員への送付

地域企業の「底力(そこぢから)」拡充に向けた JICA 施策の活用に関する情報交換会

◆日時=平成29年11月20日
◆会場=株式会社 JA ビル 大会議室 (山形市)

◆参加企業・団体
東北クリーン開発(株)、ソーラーワールド(株)
東栄コンクリート工業株式会社、(株)エツキ
(株)シェルター、Ni クリエイト
(株)渡会電機土木、(株)山形銀行
荘内銀行海外業務部、きらやか銀行
(独)日本貿易振興機構 山形貿易情報センター
(一社)山形県国際経済振興機構(株)



11月20日(月)、協力隊を支援するやまがた地球家族の会と協力隊を育てる会の主催、JICA 東北の後援により、【地域企業の“底力”拡充に向けた JICA 施策の活用に関する情報交換会】を開催しました。

当日は、海外展開に関心の高い地元企業や地域金融機関、JETRO 山形貿易情報センターなど12の企業・団体にご参加。

前半の概要説明では、まず JICA 東北の須藤勝義支部長から「中小企業海外展開支援事業」について、基礎調査、案件化調査、普及・実証事業の3スキームについての説明や事例紹介がありました。

続いて、JICA から中小企業とコンサルタントとのマッチング相談窓口業務を受託している(株)国際開発ジャーナル社から、中小企業にとっての海外市場開拓の重要性、コンサルタントの役割、マッチング相談窓口業務の内容などが説明されました。

更に、JICA 東北の進路相談カウンセラーである佐藤美喜子氏が人材の確保・育成の視点で説明。海外展開を狙う中小企業にとって大きな課題となるグローバル人材の(↗)

確保・育成について、協力隊 OB の活用や国際キャリア総合情報サイト『JICA PARTNER』などが紹介されました。

後半は、斎藤・当会副会長のコーディネーターによる情報交換。地元企業や地域金融機関、経済団体関係者などから質問や意見が飛び交い、有意義な時間になりました。

海外展開を志す新たな中小企業の掘り起こしに向けて、今後も地域に密着した取り組みを続けていきます。

エッセイコンテスト審査員特別賞

要約して紹介します!

『強い信念』 山形県立山形東高等学校1年
長澤パティ明寿さん

昨年の夏、父の母国であるネパールを訪問した長澤さんは、派遣中の青年海外協力隊員との対話を通じて「JICA が青年海外協力隊を派遣して今年で52年。一人一人の強い思い、信念、そして地道な努力の結晶が世界をどれだけ動かしてきたのだろうか」と思う。



彼は「将来、世界で異文化理解教育を推進し、文化・教育という観点から世界平和に寄与する」というSDGs(『持続可能な開発目標』)にも沿ったビジョンを描いている。

ネパール人の父と日本人の母を持つ彼は、幼い頃から異文化にふれ、考える機会が多かった。ネパールの大通りで寝そべっている牛を自動車や人がよけていた光景に驚いていると、お父さんはヒンドゥー教徒にとって牛が暮らしを支える大切なものであり、信仰の対象であることを教えてくれた。「違いを学ぶ事で、多様な価値観を理解できる。異文化を学ぶ事、感じる事は私にとってとても興味深い事なのだ。」

彼は「文化が争いや対立の火種に利用されてしまっている」現在の世界に違和感を感じ、本来の文化は「人々の心を引きつけ感銘を与えるものではないだろうか」と問いかける。

「他者の文化について深く知り、感じる」こと、「世界の多様性を理解し、自分の文化を改めて大切にしようとする」ことは、「グローバル化がさらに加速していくこれからの国際社会において、世界の人々が共に生きるための大きなキープポイント」だと考える彼は、「考え方の基礎がつくられる幼い頃からの教育を通して世界に広げていきたい」と志を立てている。

自らが目指す国際協力への道は険しいことを予感しつつ、「考え、会話し、現実を受け止めながらも理想にむかって走り続けていきたい。自分が世界を変える一人になるのだ。この強い気持ちを忘れずに。」と力強く結ぶ。

※ <https://www.jica.go.jp/hiroba/program/apply/essay/2017/index.html>

このページから、長澤さんをはじめ全国の実績作品を読めます↑

JICA 国際協力中高生 エッセイコンテスト2017 入賞おめでとう!

山形県では3名が個人賞に、3校が学校賞に入賞。



2018年3月24日(土) JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト2017表彰式および青年海外協力隊帰国報告会が山形県国際交流センター(山形市)で開催され、約80名の参加がありました。

50年以上の歴史があるエッセイコンテストに中学生38459点・高校生31685点もの応募があり、山形県内から応募した525件の中から3名が個人賞、3校が学校賞に輝きました。個人賞の3名、中高生ならではの瑞々しい感性で国際協力を捉えたエッセイを朗読して頂きました。

エッセイ コンテスト 表彰

Ⅲ 個人賞・中学生の部

◆独立行政法人国際協力機構 東北支部長賞

【科学の芽を育てて】

鈴木悠世さん/南陽市立宮内中学校3年

◆佳作

【世界と平和について】

沼澤のどかさん/白鷹町立白鷹中学校3年

Ⅲ 個人賞・高校生の部

◆審査員特別賞

【強い信念】

長澤パティ明寿さん/県立山形東高校1年

Ⅲ 学校賞

◆特別学校賞

山形県立鶴岡北高等学校

◆学校賞

南陽市立宮内中学校、飯豊町立飯豊中学校

3頁に要約を掲載

◆引き続き、青年海外協力隊<帰国報告会>を開催

沼澤彩子さん(山形市出身、インドネシア派遣/職種:助産師)と棚村慧史さん(米沢市出身、エチオピア派遣/職種:理科教育)が登壇。帰国報告とパネルトークを展開しました。会場からも多くの質問や意見が出されました。

沼澤さんは山形西高校から山形大学医学部、仙台医療センター附属仙台看護助産学校に進み、山形済生病院で助産師として6年間勤務した後、協力隊へ。2015年7月からインドネシアのロンボク島に派遣され、現地の助産師と共に、妊産婦や新生児の死亡率を下げるために活動しました。出発前に「インドネシアのお母さんと赤ちゃんに寄り添い、温かみのある看護がしたい」と抱負を語っていた沼澤さん。現地で母子の死に直面するたびに、命の重さを実感し、宗教観の違いに悩むこともあったそうです。



棚村さんは米沢興譲館高校から東京学芸大学に進み、東京学芸大学大学院を修了。2015年10月からエチオピアの首都アディスアベバに理科教育で派遣されました。当初、小学校では教員のスキルや教材の不足から、生徒が理科の実験を行うことはほとんど無い状況。そこで他の協力隊員とも協力して「授業研究会」を立ち上げ、2年間で約6700人の生徒・約900人の教師に、実験を導入した授業を体験させました。安価で身近な材料を用いた実験を提案する等、棚村さんが帰国した後も持続可能な仕組み作りを心がけたとのこと。

『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』入会のご案内

【会費】 ●個人会員 = 3000円 ●家族会員 = 1000円 (個人会員の家族)
●学生会員 = 1000円 ●団体会員 = 10000円 (企業及び団体)

【会員特典】 JICA ボランティアの姿を通して、世界が見える!

「国際ボランティアマガジン 月刊『クロスロード』」を、年間購読料5000円のところ、希望する会員には2000円の送料手数料のみで1年間12冊ご提供いたします。

☆お問い合わせ/ご入会のお申し込みは、当会事務局まで。

やまがた地球家族 VOL.16 平成30年5月26日発行(第16号) 発行人/酒井忠久

発行/〒999-7725 山形県庄内町沢新田151 富樫方 『協力隊を支援する やまがた地球家族の会』事務局

TEL&FAX) 0234-42-1458 (富樫) E-mail) info@chikyukazoku.net Website) http://www.chikyukazoku.net/